

# 自分たちで行う安全点検 (パトロール)

## 本時のねらい

- ・園内の危険な場所、遊び、生活に気付き、自分たちの身を守るためにどうしたらいいかを考え、行動する。
- ・みんなが安全に気持ちよく生活するためのきまりや約束が分かり、守ろうとする気持ちをもつ。

## 本時の位置付け

- ・5歳児の11月に実施することを想定した実践例である。今までの知識や経験をもとに、自分たちの身近にある危険と安全を友達同士で確認することで、安全な環境づくりや約束の必要性を感じ、自分のこととして安全な生活をつくる気持ちをはぐくむ機会にする。

## 展開例

時間	活動内容	教師の援助と留意点
10:50	<p>【1回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●園内地図を見ながら、危ないことがあった場所・遊び・生活について話し合う。</li> <li>・保育室・廊下                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「引き出しが出しっぱなしになって、ぶつかりそうになった」</li> <li>「引き出しの中の物が床に散らばっていることがあるよ」</li> <li>「流しの下が濡れて、すべった」 「手を洗った後、ちゃんと手を拭かないから床が濡れるんだよ」</li> </ul> </li> <li>・ホール                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「積み木の上に乗ったらグラグラして崩れそうになった」 「しっかり重ねなくちゃだめだよ」 「確かめながら積むんだよ」</li> </ul> </li> <li>・園庭                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「鉄棒のそばを歩いて、鉄棒している友達の足にぶつかりそうになった」</li> <li>「すべり台の上で押されて怖かった」 「あれは、わざと押したんじゃないよ。ぶつかっちゃったんだよ」</li> </ul> </li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の拡大地図をホワイトボードに貼り、興味をもてるようにする。また、地図から実際の場がイメージしやすいように、固定遊具や流しなどの写真を添付する。</li> <li>・幼児が危険だと感じた場所にシールを貼り、気付いた内容を簡単な絵や「ぶつかる」「すべる」など簡潔な言葉を書き込む。</li> <li>・具体的な場や遊びの姿を言葉にして、最近あったけがやヒヤリハットの経験を思い出して発表できるようにする。</li> <li>・幼児の言葉を受け、どうしてそういうことが起きたのか、どうしたらよかったかを学級全体で考え合えるようにする。幼児の言葉を補足・確認し、全員が理解できるようにする。</li> <li>・話し合い後、園内地図を保育室や廊下に張り出しておき、気付いたことや危ない経験を幼児が自由にシールを貼ったり絵を描いたりできるようにしておく。</li> <li>・翌日以降、幼児の気付きを把握し、登園後や降園前の集まりの時に気付きを発表する機会をつくり、安全・危険の意識が継続したり広がったりするようにする。</li> </ul>
11:30		

時間	活動内容	教師の援助と留意点
10:30	<p>【翌週・2回目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●できあがった園内地図を見ながら、危険な場所・遊び・生活についての教師の話聞き、気付いたことを話す。</li> <li>●手作りの安全点検表をもとに安全点検を行う。</li> <li>・グループに1枚の安全点検表をもち、好きな場所からパトロールに出掛ける。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「ここ、シールの場所だね」「これも危ないから片付けておこうよ」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内地図に新しく加わった内容や危なかった経験に触れ、自分や友達の動きを振り返られるようにする。</li> <li>・幼児の気付きを記載した園内地図から作った安全点検表を見せて自分たちでパトロール(安全点検)することを提案し、意欲を高める。</li> <li>・安全点検をしながら自分なりに「何が」「なぜ」危険なのか、このままにしておくとうなるか、どうしたら安全になるのか等を考えたり、友達と知らせ合ったりできるように言葉を掛ける。</li> <li>・幼児の気付きを受け止め、今すぐできる改善できるものはその場で一緒に行う。</li> </ul>
10:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安全点検を行い気付いたことを、グループごとに発表する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「また、はさみが出しっぱなしだったよ」</li> <li>「片付けた積み木が高過ぎて、もし崩れたら危なかった」</li> <li>「園庭に石が落ちてると、小さい組の子がけがをする」 など</li> </ul> </li> <li>●自分たちで改善できることについて話し合う。</li> <li>・最後まで片付ける、廊下や階段は走らない、順番を守る、靴はしっかり履く、ロッカーは整理して使う、濡れている場所を拭く、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話聞いて同意したり自分の考えを言葉にしたりしている姿、危険を予測したり、回避する方法を考えたりしている姿を認める。</li> <li>・危険と感じたり危険を見付けたりした時は教師に伝える、自分でできることはするなど、気付いたことを見逃さず改善する気持ちをもてるよう助言する。</li> </ul>
14:00	<p>【降園時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自分たちの安全点検の結果を保護者に知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検の結果を保護者に知らせることで、幼児や保護者の安全への意識を高め、保護者の理解も得られるようにする。</li> </ul>

## 評価

- 園内の危険な場所、遊び、生活に気付き、どうしたらいいか考えたり行動したりすることができたか。
- みんなが安全に気持ちよく生活するためのきまりや約束が分かり、守ろうとする気持ちをもてたか。

## 使用教材・準備物、留意事項など

- ・文部科学省「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」、平成30(2018)年2月
- ・文部科学省「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」、平成31(2019)年3月

# いざという時に備えた体づくり

**本時のねらい**

- ・興味をもって環境に関わり、楽しみながら様々な体の動きに挑戦する。
- ・自分なりにめあてをもったり友達から刺激を受けたりして取り組み、満足感や達成感を味わう。

**本時の位置付け**

- ・5歳児の10月に行うことを想定した実践例である。
- ・安全な生活や災害時の避難の際には、自分の身を自分で守るための滑らかな身のこなしが必要となる。幼児の場合、体を動かすことができるように練習するのではなく、日頃の遊びや学級での活動の中で自分なりにめあてをもち挑戦したり、ルールの中で友達の動きに対応して自分の動きを出したりするなどの多様な動きを楽しく経験することが大切である。
- ・運動的な活動は興味や運動能力に個人差があり、遊びの中での取組にも個人差がある。そのため、幼児がやってみたくなる環境・個人差に配慮した環境を設定し、学級全体で取り組む機会をつくり楽しい経験を積み上げていくことが、遊びの中でもやってみようという気持ちにつながる。

## 展開例

時間	活動内容	教師の援助と留意点
12:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動「冒険島で遊ぼう」をする。</li> <li>・固定遊具、大縄跳び、ボールを使った遊び、まる鬼、バランスゲーム など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児期運動指針」の基本的な動きができ、幼児が思わず体を動かしたくなる環境をホール、園庭、保育室に設定し、好きな島から個々や友達と一緒に自由に繰り返し取り組めるようにする。</li> <li>・幼児が興味やめあてをもって運動遊びに取り組めるよう、遠足での経験やイメージを取り入れた内容が入っている「キラキラGOカード」を用意する。先週に続いて各自で手に取り、挑戦していくようにする。</li> <li>・自分なりに挑戦したりめあてをもって取り組んでいる姿を認め、意欲や楽しさにつながるようにする。</li> <li>・また、様子に応じて、コツを伝えたり励ましたりする。</li> <li>・友達の動きに刺激を受けられるように、めあてをもって挑戦している姿を認めたり、その動きができていない幼児の姿を言葉にしたりしていく。また教師も一緒に取り組み、幼児のモデルや刺激となるような動きをする。</li> <li>・個々に応じて、新たなめあてがもてるよう言葉を掛ける。</li> </ul>
		<p><b>ホール</b></p> <p>《うんてい島》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶら下がりながら進む際の目標や意欲となるように、色の印を付けておく。</li> <li>・始点では背の高さに応じた台を用意し、どの幼児もスムーズに棒に届くようにする。</li> </ul> <p>《ボール島》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールの大きさによって距離を選択できるようにし、個々の力に応じて挑戦できるようにする。</li> <li>・経験の少ない「捕る」動きのところでは、コツを伝えたり励ましたりしていく。</li> </ul>

時間	活動内容	教師の援助と留意点
		<p><b>園庭</b></p> <p>《てつぼう島》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様子に応じて、それぞれの技のやり方やコツを知らせる。</li> <li>・鉄棒を安全な持ち方で持てるように、また、手を離すことのないように、見守ったり言葉を掛けたりする。</li> </ul> <p>《のぼりぼう島》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登る際の目標や意欲となるように目印を付けておく。</li> <li>・経験の少ない幼児が降りる際には、安全に降りられるように見守ったり、様子に応じて手助けをしたりする。</li> </ul> <p>《ジャンプロープ島 (大縄跳び)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳び方や技を自分で選択し、挑戦できるようにする。</li> <li>・幼児の動きに合わせて縄を回すようにし、跳ぶことができた達成感を味わえるようにする。</li> <li>・縄に引っかかってしまった友達の分も頑張ろうという思いや目標をもって挑戦できるようにする。</li> </ul> <p><b>1組・2組 保育室</b></p> <p>《まる鬼島》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に遊べるよう、保育室を広くしておく。</li> <li>・他学級の友達とも一緒に遊べるように、参加を促したり教師も参加したりする。</li> </ul> <p><b>3組・4組 保育室</b></p> <p>《バランス島》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2種類の場を設定し、幼児が自分の力に合わせて挑戦できるようにする。</li> <li>・くじを引いて出てきた動物になって渡るというルールを用いることで、楽しさを感じながら取り組めるようにする。</li> <li>・自分たちが最後まで片付けられるよう、見守ったり言葉を掛けたりする。</li> <li>・学級全体で今日の取組について話題にし、「キラキラGOカード」を見せて視覚的に頑張りやを伝えたり、幼児の発言から認めたりする。</li> </ul>
13:10	●片付けをする。	
13:30	●帰りの会をする。	

## 評価

- 興味をもって環境に関わり、楽しみながら様々な体の動きに挑戦していたか。
- 自分なりにめあてをもったり友達から刺激を受けたりして取り組み、満足感や達成感を味わえたか。

## 使用教材・準備物、留意事項など

### ●幼児期運動指針 (文部科学省、平成 24 (2012) 年)

- ・幼児期は運動機能が急速に発達し、多様な動きを身に付けやすい時期である。タイミングや力の加減をコントロールしたりするなどの調整能力が高まると、とっさの時に身を守る動きもとれるようになっていく。
- ・「幼児期運動指針」は、基本的な動きとして「体のバランスをとる動き」「体を移動する動き」「用具などを操作する動き」を挙げている。自分の園のどこで何を活用したら子どもたちがどのような動きを経験することができるか考え、思わず体を動かしたくなる環境(場・用具・イメージなど)を工夫していくことが大切である。
- ・幼児の遊びには、特定の運動のみを続けるよりも多様な動きが含まれているので、「幼児が自ら環境に関わる遊び」として楽しく繰り返し運動に取り組む、自分の体を思うように動かすようになっていくことが、いざという時に自分の身を守ることもつながっていく。

学年 3～5歳児 活動 避難訓練

# 二次避難を想定した避難訓練—津波が来た場合—

## 本時のねらい

・大きな地震後の津波が来る時の避難の仕方を知り（思い出し）、素早く行動する。

## 本時の位置付け

・年長クラスの3～5歳児の12月に行うことを想定した実践例である。  
 ・平成23（2011）年の東日本大震災の際、路面の液状化、家具の転倒、ガラスの飛散、エレベーターの停止などが起こった。台風等による大雨も含め、万が一の場合は垂直避難が必要となる。  
 ・園内の連携・協力体制づくりだけでなく、非常時に助け合う関係となるよう、日頃から地域や周辺の関係機関と連携を図ることが大切である。

## 展開例

### ●災害の想定

地震の大きさ：震度5弱

### ●被災場面の想定

3歳児 園庭で遊んでいる時

4歳児・5歳児 校庭で遊んでいる時

### ●避難場所

校庭（園庭）から隣接する小学校の4階多目的室

### ●指導内容

#### 3歳児

・園庭にいる際の避難の仕方を知る。  
 ・津波とは何かを知る。  
 ・津波が来た時には高い所に逃げることを知る。

#### 4歳児

・校庭にいる際の避難の仕方を知る。  
 ・津波とは何かを知る。  
 ・津波が来た時には高い所に逃げることを知る。  
 ・間を空けずに行動しようとする。  
 ・素早く行動する。

#### 5歳児

・津波の特徴を知る。  
 ・津波が来た時の避難場所や避難の仕方を思い出す。  
 ・間を空けずに素早く逃げるのが分かり、行動する。

事前指導の内容と留意点	事後指導の内容と留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>★園庭にいる際の避難の仕方を知らせる。</li> <li>★津波について知らせ、どこに避難するのか、どのように避難するのが分かるように視覚教材を使って話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ゲームなどを通して、並んで歩く、間を空けずに歩く、階段を使うなどの経験を重ねられるようにする。</li> </ul>

事前指導の内容と留意点	事後指導の内容と留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>★校庭にいる際の避難の仕方を知らせる。</li> <li>★津波について知らせ、どこに避難するのか、どのように避難するのが分かるように視覚教材を使って話をする。</li> <li>★前の人の防災頭巾のリボンを見て歩くと、迷子にならないことを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ゲームなどを通して、並んで歩く、間を空けずに歩く、階段を使うなどの経験を重ねられるようにする。</li> </ul>

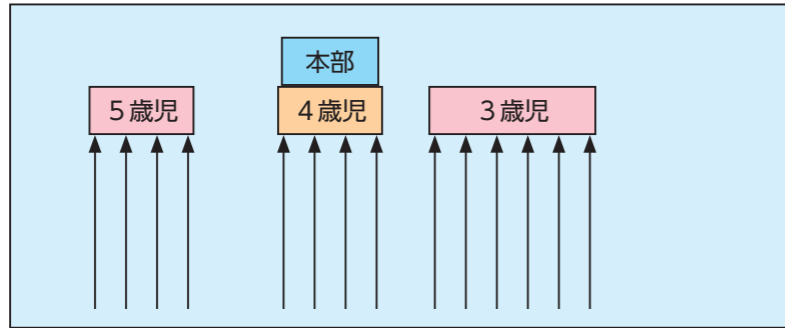
事前指導の内容と留意点	事後指導の内容と留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>★津波の特徴を確認し、避難の必要性、避難の仕方が分かるようにする。</li> <li>★階段を使う機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ゲームなどを通して、ルールに沿って素早く動く、友達の動きに応じて身をかわす、先生や友達の話をよく聞くなどの経験を重ねられるようにする。</li> </ul>

## ●流れ

時間	活動内容（3歳児）	活動内容（4・5歳児）	教師の援助と留意点
12:20	・園庭で遊んでいる	・校庭で遊んでいる	・担任は、訓練時まで各保育室で本日の避難訓練の話をする。 <b>事前指導</b> 3歳児・4歳児：津波について知らせ、どこに避難するのか、どのように避難するのかが分かるように紙芝居などを活用して話す。 5歳児：津波から逃げるためには、前の人を抜かしてもいいことを伝え、素早く歩いて階段を上がることを確認する。 <b>放送：副園長 放送の中で警戒音を鳴らす。</b> 副園長： ①～警戒音～避難訓練です。地震です。大きく揺れています。ダンゴムシのポーズをして頭を守りましょう。（2回繰り返す） ②揺れがおさまりました。 ※放送が聞こえなかった場合、大声や笛で緊急であることを幼児に知らせる。 ・幼児に放送の指示に従うよう伝える。 園長：津波警報発表を受け小学校避難の判断をし、副園長に園内放送の指示をする。小学校長の了解を得る。
12:25	・放送や担任の指示を聞き、ダンゴムシのポーズをする。  ・担任の指示を聞き、整列する。	・放送や担任の指示に従って、ダンゴムシのポーズをする。  ・担任の指示を聞き、整列する。	<b>放送</b> 副園長： ③ただ今、津波が来る連絡がありました。幼稚園にいと危ないので、小学校まで避難します。 ※主事：園内に残留児がないことを確認次第、幼児の最後尾に付き、小学校へ向かう。 預かり保育職員と主事：防災頭巾を持ち、避難誘導の補助をする。 園長：小学校に本部を設置する。 副園長：避難指示の放送から人員確認までの時間を計る。 担任：ヘルメットをかぶり、防災リュック・出席簿・学級旗を持参する。 ・教職員が連携して避難経路の安全確認をしながら、4歳児・3歳児はA階段、5歳児はB階段を上がり、4階まで避難誘導する。 ・配慮が必要な幼児には、介助員が付く。 ・本部前に2列に誘導する。先生が3歳児の防災頭巾をかぶる手助けをする。 担任：2列に並ばせ、人員を確認し、副園長に報告する。 「○○組、在籍○名、欠席○名、出席○名、全員避難しました。」 主事：園舎内、トイレ、絵本コーナー、ホール、預かり保育室、園庭の固定遊具等の後ろや下、裏庭の残留園児確認を行い、副園長に報告する。 副園長：園長へ人員報告をする。 園長：指導、講評をする。津波の予告があった時の避難の仕方が分かって、素早く階段が上がって避難できたか。 担任：幼児を保育室に誘導し、保育室で事後指導をする。避難時の様子から、避難の仕方を確認したり、幼児なりに考えて行動していた姿を認め次の意欲につながるようにしたりする。
12:35	・放送を聞き、小学校まで避難する。速やかに4階へ垂直避難して2列に並び、防災頭巾をかぶる。	・放送を聞き、小学校まで避難する。速やかに4階へ垂直避難して体育館で2列に並ぶ。	
12:50	・防災頭巾を脱ぎ、園長先生の話聞く。 ・防災頭巾を渡し、保育室に戻って担任の話聞く。	・防災頭巾を脱ぎ、園長先生の話聞く。 ・保育室に戻って担任の話聞く。	

●避難場所の例

[小学校 4階多目的室]



▶ 評価

- 大きな地震後の津波が来る時の避難の仕方を知り（思い出し）、先生の指示を聞き、素早く行動することができたか。
- 教職員は自分の分担を果たしつつ、連携して幼児を守り、避難誘導することができたか。

**☑ 使用教材・準備物、留意事項など**

●持ち物や係分担・準備

<避難時の持ち物> 出席簿、学級旗、防災リュック、ヘルメット <常備しているもの> 人員確認用紙、トランシーバー、笛、携帯電話、マスターキー	<係分担・準備> 放送（副園長） 拡声器（園長） 保育室の避難誘導（学年の担任）
---	---

●留意事項

- <津波の避難場所について>  
垂直避難だけでなく、近隣の高台など複数の避難場所と避難経路を想定しておく。
- <ダンゴムシのポーズについて>  
地震の時に自分の身を守る姿勢として身に付けておく。  
[https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das\\_id=D0005320299\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005320299_00000)

二次避難を想定した避難訓練を含む年間指導計画例

活動のねらい

- 年間を通して幼児に以下の力を身に付けさせる。
- (1) 刻々と変化する状況に応じ、人の話をよく聞き、個人で適切な判断ができる力
  - (2) 様々な身のこなしができる力
  - (3) 集団として落ち着いて行動できる力

▶ 避難訓練の年間指導計画例（4・5歳児／2年保育）

回	ねらい	想定・避難訓練の内容		留意点
1	避難訓練の行動の仕方が分かり、教職員の話を聞き、指示に従って避難する。	地震 震度3	保育室に集合時	◎日々の遊びや生活との関連 ・普段の姿や避難行動から見られる幼児の課題に合わせ、「幼児期運動指針（文部科学省）」を参考に、災害時に身を守るために必要な動きが経験できる運動遊びや生活の中での動きを教職員が意識し、日常的に取り入れる。 ◎教職員の共通理解 ・預かり保育中に災害が発生した際、担当職員やボランティアも幼児に指示・避難誘導できるよう、マニュアルを全教職員で共有する。 ・災害時の混乱の中で、誰もが分かりやすく迅速に行動できるよう、災害時の指示内容（放送原稿）を災害別に作成し、共通理解を図る。 ・毎回、避難訓練時の教職員の援助を振り返り、次回に的確な援助・指示ができるようにする。 ◎教材 ・物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を写真や絵表示を使って、幼児と一緒に考える。 ・発達に応じた避難訓練の仕方や約束の絵表示、写真 ・津波発生時の危険性についての絵表示 ・幼児が自分で考えたり確認したりできるような避難時の絵表示や写真 ・「じしんだんゴムシ体操」 <a href="https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005320299_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005320299_00000</a>
2		地震（預かり保育）	預かり保育時 預かり教職員の指示	
3		巨大地震 配信メール訓練	保育室に集合時 保護者への引き渡し訓練	
4		地震	4歳児：保育室に集合時 5歳児：好きな遊びの時	
5		地震 震度5強 二次避難（津波）	保育室に集合時 二次避難場所への避難訓練	
6		火災 近隣出火	登園時 園庭避難	
7	様々な場面や想定での避難の仕方が分かり、落ち着いて避難する。	巨大地震 引き渡し訓練	保育室に集合時 小・中と連携した合同引き渡し訓練	
8		火災 主事室出火	室内での好きな遊びの時 消防署の方の指導	
9		火災（預かり保育）	預かり保育時 預かり教職員の指示	
10		地震による液状化	保育室に集合時 隣接する小学校への避難	
11		地震 予告なし	様々な場所での好きな遊びの時	
12		地震 震度5強 二次避難（津波）	園庭での好きな遊びの時 二次避難場所への避難訓練	
13		火災 放送機器使用不可	好きな遊びの時	
14		地震 震度4	好きな遊びの時	
15		時間・想定予告なし		